

令和4年度 第1回総合教育会議

開催日時：令和4年4月12日（火） 11：00～11：45

場所：岡垣町役場新館2階庁議室

出席者：

＜岡垣町総合教育会議構成員＞

町長 門司晋、教育長 佐々木敏幸、教育委員 花田悦子、教育委員 占部義和、
教育委員 福山康憲、教育委員 古賀弘明

＜事務局＞

企画政策室長 来田理、企画政策室企画政策係長 中村光良

教育総務課長 神屋智行、生涯学習課長 神谷昌宏、子育てあんしん課長 下村智治

議題：

- (1) 令和4年度の教育施策と主な内容について
- (2) 岡垣町の児童家庭相談支援に関する現状と課題について
- (3) 教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策に関する意見交換

議事録

1. 開会

(1) 町長あいさつ

門司町長：一言あいさつをさせていただきます。まずは新型コロナウイルス感染症のことですが、小中学校での感染者数は一時期よりも少なくなっていますが、現時点でも数名の感染者がいる状況です。現在、一番懸念していることは、若年層のワクチン接種率です。この一週間の遠賀郡の感染者数は378名となっていますが、そのうち50歳未満の感染者が84%を占めています。さらにその半数が10代と20代であり、感染者が若年層に集中しています。そんな中、50歳以上の方で2回目のワクチン接種を受けた方の3回目の接種率は90%を超えていますが、50歳未満の方は50%程度という状況です。ワクチンを接種すれば絶対に感染しないわけではありませんが、重症化の予防などの効果もありますので、町としてはワクチン接種の効果について今後も周知をしていきたいと思っています。ワクチン接種を強制することはできませんが、ワクチン接種の効果については、学校においても周知をお願いいたします。次に、ロシアのウクライナ侵攻についてです。日本で戦争が終わってから4分の3世紀が過ぎているのに、まだこんなことが起きるのかと信じられないという思いです。今、町としてできることは募金活動くらいしかないのが現状ですが、3月から募金を開始し

て、すでに町内の方から86万円程度の寄付が寄せられています。先日のニュースでウクライナ首都近郊での虐殺についての報道があった際には、涙を流しながら募金箱に寄付をされた方もいると聞いています。皆さんの思いは同じであると思います。早く戦争が終わってほしいと願うと同時に、学校教育の場においても、平和の大切さについて伝えていってもらいたいと思います。私は現場に足を運ぶ主義であり、最近では中学校の野球部の練習もよく見に行くのですが、生徒たちが非常に元気に挨拶をしてくれて本当に気持ちがいいです。これからも現場に足を運んで、学校施設のことなども実際に確認しながら、町としてやるべきことを行っていかうと思いますので、この総合教育会議の場を活用して有効な意見交換ができればと思います。よろしくお願ひします。

2. 議事

(1) 令和4年度の教育施策と主な内容について

教育総務課長(神屋):令和4年度の教育施策と主な内容について説明(概要は次のとおり)

- ・ 昨年度教育委員会で審議を重ね、本年3月に教育基本構想を策定
- ・ 教育基本構想の基本理念のもと、6つの基本方針に沿って令和4年度の教育施策を推進

企画政策室長(来田):令和4年度の教育施策と主な内容についての説明がありました。ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

企画政策室長(来田):特にないようですので、次の議題に移ります。

(2) 岡垣町の児童家庭相談支援に関する現状と課題について

子育てあんしん課長(下村):岡垣町の児童家庭相談支援に関する現状と課題について説明(概要は次のとおり)

- ・ 令和元年10月に「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」を設置
- ・ 令和2年4月に子育てあんしん課を設置し、児童相談支援体制を強化
- ・ 教育委員会に配置されていたスクールソーシャルワーカーを、令和2年4月から小中学校専門の子ども家庭支援員として、子ども家庭総合支援拠点に配置
- ・ 相談件数は年々増加。
- ・ 今後も学校や関係機関等とより連携し、情報共有を図りながら対応にあたる

企画政策室長(来田):岡垣町の児童家庭相談支援に関する現状と課題についての説明がありました。ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

花田教育委員:岡垣町は早い時期から子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターを設置し、相談支援の体制も充実してきたと感じています。町内にはこども食堂もできましたし、そういう地域の中での子どもの状況把握というのも今後大事である

と思っています。正規職員の保健師もそれぞれの部署に配置されており、乳幼児健診の時から関わっていただけるのは親にとっても心強いことですが、転入してきた世帯などで乳幼児健診を受けていない子どもや、小中学校でも学校と保護者がうまくいかないなどの例もあるので、子ども家庭支援員が配置されたことは教育と福祉をつなぐ意味でも大きな役割があると感じています。思春期の子ども達の支援については、学校も苦慮しているところであり、そういった部分も学校と福祉の関係課等が連携することで対応できればと思います。

佐々木教育長：学校にはスクールカウンセラーを配置していますが、時間的な制約などにより相談に対応できないことがあります。そういう中で、子ども家庭支援員にもかなり相談に対応していただいています。それでもすべての相談に対応できる体制までには至っていません。私は、学校に常時相談員を置くことが望ましいと考えています。町の財政状況も理解していますが、小中学校の児童生徒数や現在の相談件数の増加を考慮すると、子ども家庭支援員の体制強化やスクールカウンセラーの配置の増加などの対応をお願いしたいと思っています。

門司町長：保護者や児童生徒からの相談を受けているが、相談を受ける際の流れはどのようになっているのか。

教育総務課長（神屋）：1回目の相談は、学校の先生が相談者と支援員を繋いで、相談を受けることが多くなっています。2回目以降は、直接電話で相談を受けるといった場合もあります。

門司町長：相談内容としては、どんなものが多いのか。

教育総務課長（神屋）：不登校に関することや、家庭での子どもとの関わり方といった内容が多いように思います。

花田委員：相談内容の中で家庭環境に関するものが増えているように思います。学校行事などの役員のなり手がなくて、コロナ禍も影響して保護者が学校に足を向ける機会も減っており、保護者と関わるツールが本当に無くなってきています。それぞれの学校がSNSなどを使って保護者と連絡をとってはいますが、ソーシャルワークをしつかりできる人材の確保が本当に重要であると思います。課題を持つ家庭が増え、相談内容も多様化しているため、相談に対応する職員などのスキルアップのための研修などにも力を入れていただきたいと思っています。

企画政策室長（来田）：それでは、次の議題に移ります。

（3）教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策に関する意見交換

企画政策室長（来田）：次に、教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策に関する意見交換ということで、お気づきの点などありましたらお願いします。

佐々木教育長：英語教育についてです。岡垣町では英語教育改革イニシアティブ2016を推進し、安河内先生に指導をいただいています。新型コロナウイルス感染症の影響

もありますが、今後も引き続き、特色ある英語教育を推進していきたいと思っています。

企画政策室長（来田）：その他、ご意見等ございませんか。ないようですので、これで本日の総合教育会議を閉じます。